

名古屋市鶴舞中央図書館について

大正時代に開館して以来、あらゆる資料を収集、保存しつづけ、現在の所蔵数は約130万冊。日々、利用者からの「知りたい」に応えている。名古屋城の百科事典『金城温古録』や江戸時代の名所案内『尾張名所図会』など貴重書も多数。設備の老朽化は嘆かわしいが、資料、そして司書の能力は他都市にも引けを取らない（はず）。

愛知県内に在住・在勤・在学であれば貸出券を作ることができる（要証明）。貸出券は名古屋市図書館 21 館共通で、どこでも貸出・返却が可能。必要な資料を希望する図書館で受け取れる予約・配送サービスも行っている。



イベントのお知らせ

図書館司書 presents「本のめがねで名古屋を見る」

本というめがねをかければ、自分の暮らすまちが、いつもよりちょっと素敵に見えるはず。名古屋にまつわる本の紹介と、図書館の裏側・書庫めぐりの2本立て。

日時 10/27(土)13:00～14:30

場所 名古屋市鶴舞中央図書館・第1集会室にて

申込 9/15(土)より電話(052-741-9822)または窓口にて受付、先着順で20名

対象 中学生以上



発行：2018年9月

名古屋市鶴舞中央図書館

電話：052-741-3131

FAX：052-733-6337



第一回
郷土資料って何？

めがね

司書の顔がうつすら見えるマガジン

名古屋市鶴舞中央図書館



司書＝めがね？

カウンターに座っているとき以外の姿を知ってほしい。そう思って、図書館司書の PR 冊子を作ることにした。同僚取材し始めて早々に壁にぶち当たった。どの人もひねくれ者で、なかなか素顔を見せてくれない。サブタイトルを「うっすら見える」に決めた。

さて、めがねである。

映画などに司書が出てくると、彼／彼女はたいていめがねをかけている※¹。めがねには人間を知的に見せる効果があるため※²、難しそうな本をたくさん扱っている司書＝めがね、というイメージが定着したのかもしれない。

現実はどうかという、うちの図書館司書のめがね率は 66%…微妙な数値だ。けれど知的好奇心旺盛な人が多いのは事実。その好奇心が「出世する」「上手に生きる」ことに傾けられたらあっという間にエリート街道まっしぐらだろうに、なぜか逆走したり、寄り道したりしている人ばかりのように思う。

でも、人生の豊かさとは、寄り道の連続によって作られるものだ。
あなたも図書館に通って、実り多い人生を歩もう。

参考文献

- ※1『映画の中の本屋と図書館 後篇』飯島朋子／著 日本図書刊行会 2006 年
漫画にみる図書館職員の人物像(1990 年代以降) 山口真也 沖縄国際大学日本語日文学研究 5(2), A1-A33, 2001
- ※2『被服と化粧の社会心理学 人はなぜ装うのか』大坊郁夫・神山進／編集 北大路書房 1996 年
パーソナリティ判断の実験的研究ーメガネ着用効果の検討を中心にー 斉藤耕二 実験社会心理学研究 17, 121-127, 1978

ちなみに「めがね＝博学のシンボル」であることから、昔のドイツでは、皇帝に謁見するときには不敬にならないようにめがねを外していたとか。めがねについて詳しく知りたい方は『眼鏡の社会史』白山晰也／著をどうぞ。

上司もめがね

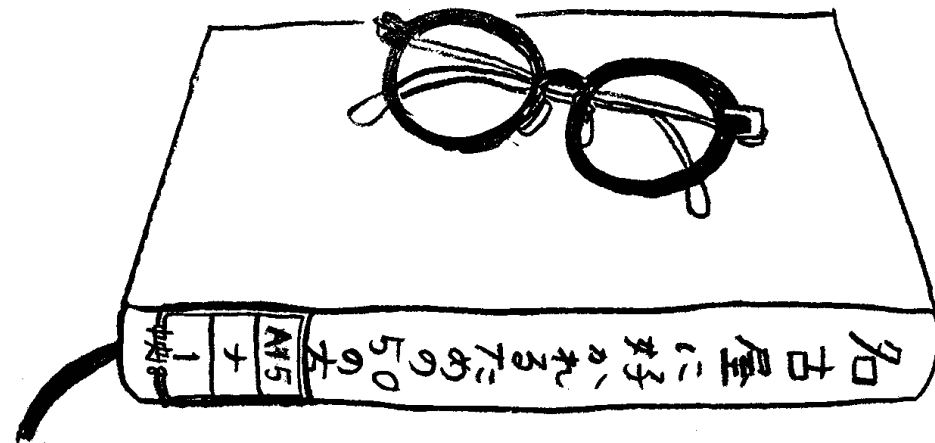
誰よりもお客さま第一だが、「いらっしゃいませ」の声に力が入りすぎていて子どもがおびえる時あり。チョコレートが大好き。



加藤課長

高木係長

郷土 LOVE。これまでに名古屋関係の展示をいくつかやってきたが、部下が誰もほめてくれないのでちょっと傷ついている。



第一回

郷土資料って何？

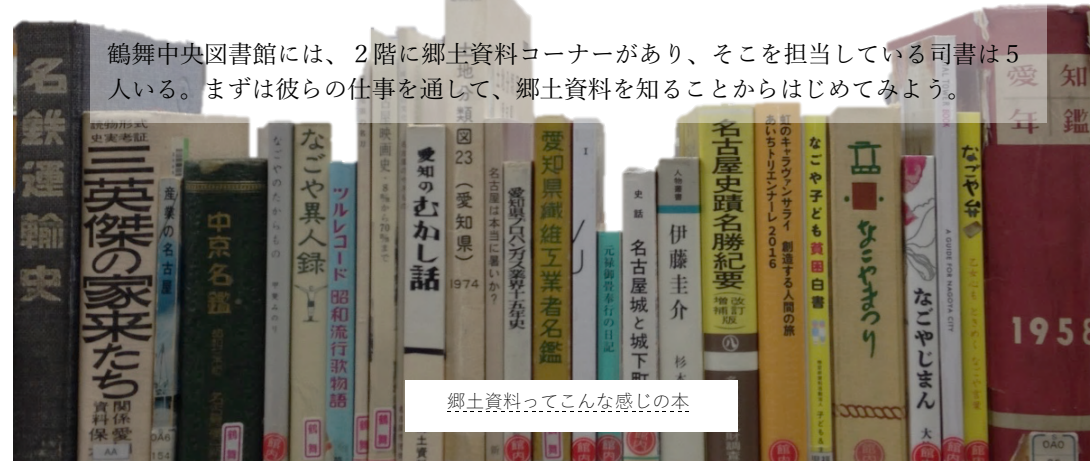
【郷土資料】：

図書館資料の種類の一つで、図書館の所在する地域や自治体に関する資料。（『図書館情報学用語辞典』第3版より）

図書館業界の中では、郷土資料はかなり重要な存在だ。図書館の司書は、地元のことからその地域の図書館に聞くのが一番だと自負している。いわば図書館のアイデンティティの中核をなすとも言える資料なのだ。

とはいえ、郷土愛がとんでもなく強い人でない限り、郷土資料になじみのある人はあまりいないだろう（見た目もぱっとしないし、どう使ったらいいのかわからない）。

鶴舞中央図書館には、2階に郷土資料コーナーがあり、そこを担当している司書は5人いる。まずは彼らの仕事を通して、郷土資料を知ることからはじめてみよう。



古書店での買いつけ

郷土資料は流通がとて少なく、寄贈や新刊書店だけに頼ってはなかなか収集できない。絶版になったものなどは、古書店に足を運び、地道に収集していく。思わぬお宝に出会えることも。

(撮影協力：海星堂書店)

あつめる



つたえる

貴重書のデジタル化

郷土資料の中には江戸時代に書かれた貴重書もあるが、図書館の役割はただ保管することだけではない。書名などを調べ、目録を整備して、利用しやすい環境をつくるのも大事な仕事。貴重資料の一部はデジタル化し、インターネット上で公開もしている（詳しくは「なごやコレクション」で検索を）。

郷土に関するレファレンス（参考調査）

収集した資料を使って利用者からのレファレンス依頼に応える。普段は地味で目立たない郷土資料が一番輝くのがこの時。本も人と同じで、見た目より中身だと実感する。ちなみにこの写真は「名古屋での徳川家康ゆかりの史跡・建造物が知りたい」という依頼だった。

資料の展示

展示は、資料が多くの人目に触れる絶好の機会。保存のため貸出ができないものや、棚にあるだけでは良さが伝わりにくい資料を、いかに上手に紹介するか。司書の腕の見せどころだ。写真は大口六兵衛（明治に活躍した、名古屋のジャーナリストの草分け的存在）ゆかりの資料で、近日展示予定。

うっすら 見える話

図書館で働いてる人ってどんな感じ？
本人たちに聞いてみました。

第一回 郷土資料担当者

Q1. どうして図書館司書になったのですか。

Q2. 郷土資料のおすすめの使い方を教えてください。

Q3. めがねに対するこだわりは何ですか。



水戸黄門にハマる
しぶい女子高生でした

石垣司書（郷土担当2年目）

1. 本が好きで、図書館という空間が好きだったから。
2. 身近なところも調べてみると、穴場スポットや名古屋の面白情報に出会えるかも…。
3. 特にないです。



変形菌柄の
マステを愛用中

中谷司書（郷土担当7年目）

1. 人が本を読んでいる姿を見るのが好きだから。
2. 昔の写真をながめてから現地に行くと、気軽に楽しくタイムスリップできます。
3. 特にないです。



めがねにこだわりのない人
とは仲良くできない（自分
はコンタクト派だけど）

山田司書（郷土担当5年目）

1. 学生時代に図書館の使い方を教えてくれた司書の中にとてつもなくカッコいい人（心の中では師匠と呼んでいる）がいて、うっかり憧れてしまったから。
2. 特に目的を決めずに昔の名古屋の新聞を読んでみてはどうでしょう。当館では、明治のものから読めます。まずは自分の誕生日から始めてみては。
3. ツルは必ず左からたたむ。



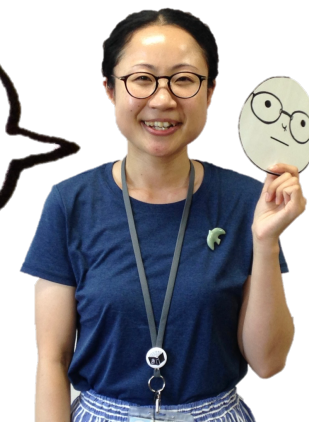
おばけ屋敷
大好き

阿部司書（郷土担当4年目）

1. 本が好きだったから。絶版になってしまう本を好きになることも多かったので、ずっと保存していただける図書館で働きたいな、と思いました。
2. 調べ物をしていると、身近なびっくりに出会える。
3. 度数が強いと頭が痛くなるので、免許更新の為に両目で0.7あるくらいがベスト。

5人とも2階のカウンターにいます（なんと！鶴舞図書館には1階だけでなく2階もあります）。ぜひ会いにきて「めがねすてきですね」と話しかけてみてください。

はい～
みなさんうっすらした回答
ありがとうございました～



みんなを取材した人
石谷司書（郷土担当1年目）

1. 私服で働けるから。
2. 昔の芸妓さんの写真集を見てにやにやする。
3. 死ぬまで使える強度とデザイン。